

2020 年 7 月 8 日 担当者: 小松

サウジ原油調整金

全油種引き上げ

8月積み、需給改善で

2020年8月積みの
サウジ産原油の調整金
(1バレルあたり円、+は割
増金、-は割引金、カ
ッコ内は前月比増減額)

スーパーライト	+2.65 (+1.00)
エキストラライト	+1.2 (+1.00)
ライト	+1.2 (+1.00)
ミディアム	+1.2 (+1.00)
ヘビー	+0.9 (+1.00)

サウジアラビアの国営
石油会社サウジアラムコ
は、アジアに輸出する8
月積み原油の調整金を全
油種で引き上げる。日本
の石油会社に通知した。
産油国の減産が続く中で
アジアの製油所の稼働率
が上向き、需給の改善傾
向が続くと見込んだ。
代表油種「アラビアン
ライト」は指標価格に対
して1バレルあたり1・20円
の割り増しとし、7月積
みから1円上げる。軽質
の「エキストラライト」
や中質の「ミディアム」
も同額とした。いずれも
引き上げは3カ月連続と
なる。

日本の石油会社がサウ
ジから長期契約で調達す
る価格はバイ原油とオ
マーン原油の月間平均を
指標とし、油種別に調整
金を加減して決める。足
元の石油需要は伸び悩ん
でおり、今回の値上げが
製油所の採算悪化を早め
てしまう恐れがある(石
油アナリスト)との指摘
もあった。



2020 年 7 月 8 日 担当者: 岩崎

週間コスト50銭～1円上昇

週間原油コストの推移

期間	原油相場		為替(△は円高)		円建て原油コスト	
	\$/バレル	前週比	円/\$	前週比	円/\$	前週比
5/26~6/1	35.50	0.03	108.69	▲0.01	24.27	0.02
5/27~6/2	35.88	0.28	108.66	▲0.12	24.52	0.16
6/2~6/8	39.66	4.16	109.75	1.06	27.38	3.11
6/3~6/9	39.81	3.93	109.85	1.19	27.50	2.98
6/9~6/15	39.61	▲0.05	108.36	▲1.39	27.00	▲0.38
6/10~6/16	39.46	▲0.35	108.21	▲1.64	26.86	▲0.64
6/16~6/22	40.96	1.35	108.03	▲0.33	27.83	0.83
6/17~6/23	41.76	2.30	107.96	▲0.25	28.35	1.49
6/23~6/29	41.68	0.72	107.98	▲0.05	28.31	0.48
6/24~6/30	41.34	▲0.42	108.14	0.18	28.12	▲0.23
6/30~7/6	42.42	0.74	108.71	0.73	29.00	0.69
7/1~7/7	42.67	1.33	108.62	0.48	29.15	1.03

(注)原油はドバイ、オマーンの平均。為替レートはTTS。

WTI・ブレント 4カ月ぶり高値

原油相場は経済正常化への期待を手にかりに堅調に推移した。本紙算定の円建て週間原油コスト(ドバイ、オマーン平均)は、6月30日～7月6日が前週から70銭、1～7日が1円ほど上昇した。別表参照。前週までの元売仕切価格は2週にわたって引き上げ改定となったが、仮に原油コスト通りなら当週も上げ基調が継続しそうだ。

経済動向をめぐって善したほか、欧米やアは、米国の雇用統計やシアの株式相場が上企業の景況などが改昇。景気が回復して石

油需要が持ち直すとの見方につながった。原油需給は、米石油サーピス企業ベーカー・ヒューズのまとめで米石油掘削装置の稼働数が16週続けて減少。EIA(米エネルギー情報局)によると、過去最大に達していた米原油在庫は4週ぶりに減少に転じた。

ただ新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で、経済の先行きには不透明感が強まっている。米国では飲食店の営業制限など、経済活動の再開を見直す動きが広がっている。

指標原油(期近、終

よそ4カ月ぶりの高値水準をつけた。6月30日～7月6日の値幅はそれぞれ39¢、27¢から40¢、65¢、41¢、15¢から43¢、14¢。中東産ドバイ、オマーン平均は6月30日～7月6日が70¢、1～7日が1¢、30¢ほど値を上げている。

銀行TTSレート平均は、6月30日～7月6日は1¢、108円71銭で前週から73銭の円安ドル高。1～7日は1¢、108円62銭で48銭の円安ドル高だった。

米国では新型コロナウイルス感染再拡大に対する警戒感が高まっているものの、経済指標には改善がみられ、円売ドル買いにつながった。

燃費油新新聞

引用記事 : 日本経済新聞 ・ 燃



ウメモト インフラオメーション



2020年 7月 8日

担当者：小核

トント化粧品向け本格開拓

ベイト
製
精ナ

ホーシユン 高粘性・高白色を訴求

ベントナイトの製造・販売を手がけるホーシユン(群馬県安中市、中村元三社長)は、精製ベントナイトによる化粧品市場の開拓を強化する。高粘性・高白色などの特徴を持つ新シリーズを上市し、このほかサンブルワークを開始。スキンケア用品やクレイ系化粧品向けの増粘・乳化安定剤として、外原薬に対応す

る高純度Na型ベントナイト(ベンゲルネクスT)3製品を上市した。7月には高白色微粉末「同 H」とフレックブルワークを始め、スキンケアやヘアケア用品、クレイ系化粧品向けに展開する。淡黄褐色粉末の「同 NC」は2018年からサンブルワークを

開始。すでに水系系イロや泥系石けん向けに実績化を果たした。長期安定性が評価され、「20年にも及ぶ新規採用を獲得」(担当者)したという。精製の工程を見直し、溶解中の増粘・チキン性を向上させた。5重量%分散液で剪断速度1/sec時に1000パス以上の高粘性を実

現。水系の増粘やO/W(水中油)型製剤の乳化安定に適する。



ベンゲルネクスT3種の分散液(上)と粉末・フレック



有機ベントナイト「エスペン」シリーズでも今期中に白色度を高めた新製品を投入予定で、化粧品分野の開拓に注力していく。ベントナイトの特

徴として、ガム系増粘剤のような系引きがない点でも機位性の発揮を見込む。粘上特有の滑らかな肌触りやべたつきを抑制できるメリットがあり、高粘度との両立で有機系増粘剤の一部置き換えを見込めるという。

一方、ベンゲルネクスTシリーズをベースとする新田産産用も機位。結晶のアスペクト比を高めた有機ベントナイトを開発中で、年内を目撃として製品化を目指す。乾燥時に形成する強固な迷路構造がガラスリア性を実現。食品包装用リアコ

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報